

日本の「競輪」と世界の「KEIRIN」の比較

Drow a contrast between Japanese keirin and the world's KEIRIN.

1K05B050 岡本 光由
指導教員 主査 太田章先生 副査 村岡功先生

1章. はじめに

今年8月に行なわれた北京オリンピックのケイリンで永井清史選手が念願だった銅メダルを獲得した。日本発祥の「ケイリン」だが、過去のシドニー五輪とアテネ五輪において「日本のお家芸」といわれているケイリンでは、日本の選手は今まで結果を残すことが出来ず、日本はオリンピックや世界選手権などのケイリンで苦戦を強いられてきた。そこで本論文では、以下の内容と構成に基づいて、「競輪」と「ケイリン」の違いについて述べ、課題を明らかにし提言する。

2章. 自転車の歴史

自転車は1800年頃に発明したと言われ、今日では私たちの生活の中でごく普通に使用されている。発明当初は自転車にまたがり足で蹴っていたものが、今ではデザイン性を重視した自転車や競技用自転車、安全性を重視した自転車など、さまざまな形に変化していった。ここでは自転車の誕生から現在までを振り返る。

3章. 自転車レースの歴史

自転車レースは自転車が発明されてすぐに始まり、1896年の第1回近代オリンピックから正式種目として採用された。また、104年の歴史を持つ「ツール・ド・フランス」も、今ではオリンピックやサッカーワールドカップと並ぶ世界3大スポーツイベントの名にふさわしい大会となっている。トラック競技も1868年に世界で最初の自転車競技が行なわれ、1895年には日本初の自転車競技が横浜クリケットクラブで行なわれた。これらの歴史を振り返ると、レースの発展とともに自転車も進化してきたといえる。

返ると、レースの発展とともに自転車も進化してきたといえる。

4章. 日本での自転車競技の歴史

1886年に帝国大学が「自転車会」の設立をきっかけに、現在の日本自転車競技連盟が存在しているが、それまでにはプロ・アマ統合や日本学生自転車競技連盟の設立、早稲田大学自転車部の設立などがあって今に至る。早稲田大学自転車部が加盟している日本学術自転車競技連盟は昭和15年の幻の東京オリンピックにむけて昭和11年に設立された。当時は学生スポーツがアマチュアスポーツの中心とされ、日本のスポーツ界を牽引していた。

5章. 競輪の歴史

競輪は国際スポーツ株式会社の働きかけによって誕生し、昭和23年11月20日に小倉競輪場で最初の競輪が開催された。それから競輪は今年で60年を迎える。しかし、途中には暴動や世論の変化もあり競輪の存続の危機があった時期もあって、全盛期には60個あった競輪場も現在では47個に減少し

て、今では客の競輪離れの危機があって競輪は大きな転機を迎えている。

6章. オリンピック・ケイリンの歴史

日本自転車振興会会長であった花岡氏の働きによって、シドニーオリンピックからケイリンが正式種目として認められた。正式種目に認められる

までには日本人選手がヨーロッパの試合に出ないことや、ケイリンの審判が難しいなどといった課題があった。しかし、これらを解決し、ケイリンの面白さを訴え続けることでオリンピックでのケイリンを実現させた。

7章. 競輪とケイリンの違い

- a. 競輪とケイリンの走り方の違い
- b. 意識の違い
- c. バンクの違い
- d. ピストの違い
- e. 短距離種目の王者 クリス・ホイ
- f. 北京五輪を振り返って

これらそれぞれの視点から競輪とケイリンの違いについて検討し、課題を明らかにする。

8章. まとめ

7章で述べたように競輪とケイリンではさまざまな相違点があった。そこで私が考える以下のことを提言する。

?本業である競輪を休み、2~4年あるいは1年間といった長い期間で自転車競技に集中して取り組み、またそれをサポートする体制を整える。

?プロスポーツの中で一番多いとされている競輪界全体の中からの人材発掘および、ジュニア世代から大学生世代の段階的な育成プログラムの必要性。

私は世界の舞台で日本人選手が活躍することで日本のスポーツ界をはじめ、日本全体を活性化させ、世間の自転車競技や競輪への関心が一層高まり、競技人口の増加に繋がってくれることを願っている。